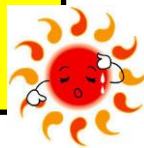


家畜・飼料作物の生産性を維持・向上する 暑熱対策に取り組みましょう！



今年の夏は全国的に平年より気温が高くなると見込まれています。
家畜と飼料作物を暑さから守るため適切な暑熱対策を行ないましょう。

〇家畜への対策

- ・飼育密度の緩和、換気扇や扇風機による畜体等への送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める
- ・寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材設置及び屋根への消石灰の塗布等により、畜舎環境の改善に努める
- ・良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給及び清浄で冷たい水の給与に努める
- ・観察の頻度を増加させることにより、健康悪化の兆候がないか等、家畜の状態をよく把握し快適性に配慮した飼養管理に努める

〇飼料作物への対策

- ・草地は、過放牧、過度の刈り及び・短い間隔での刈取りを避け貯蔵養分の消耗を軽減して草勢の維持に努める。また夏枯れ等で草勢低下が見られた場合には、必要に応じて追播やは種直後の雑草防除等適格な維持管理作業を行う
- ・土壌の保水力向上のため有機質の多投等を行うとともに、今後、は種する場合には耐干性の優れた草種・品種の選定に努める
- ・青刈りトウモロコシやソルガム等は、収穫期が近い場合はコストに配慮しつつかん水に努め、かん水や草勢回復が困難な場合は早期収穫により品質低下の防止に努める

※暑熱対策・相談窓口(次のHPを参照してください)

(公社)中央畜産会：<http://jlia.lin.gr.jp/keiei/>

(公社)畜産技術協会：<https://sec.lin.gr.jp/jita/toiawase/index.php?module=Contact&action=toiawase>

山梨県西部家畜保健衛生所

電話・・・0551-22-0771(平日) FAX・・・0551-22-6728

土日・休日・夜間の連絡は・・・090-5564-1018または090-5568-0817

暑熱対策事例

1

新潟県搾乳牛50頭飼養農場での取組

畜舎環境、飼養管理における複合的な対策

- 十分な飲水の確保→給水管を太くした
- 畜舎温度上昇の抑制→井戸水を利用したスプリンクラー設置
→トンネル換気の実施(牛舎壁面に換気扇設置)
- 採食量の維持→1日6回に分けて配合飼料を少量ずつ給与
(自動給餌機)
→盗食防止板の設置により飼料摂取量を適正にコントロール

(効果)日乳量 0.4kg/頭増加 分娩間隔 0.6ヶ月短縮

牛舎屋根に設置したスプリンクラー



牛舎壁面の換気扇



石灰の吹きつけ



暑熱対策事例

2

宮崎県肉用牛200頭飼養農場での取組

畜舎屋根への石灰塗布

- 塗布面積:800㎡(屋根材:ガルバリウム)
- 作業人数:5名 作業時間:3時間(実質塗布時間:2時間)
- 石灰(牛舎消毒用)、水、動力噴霧機、電動ドリル、かき混ぜ棒、ポリバケツ(大)
- 石灰を水に溶かして石灰乳を作り、動力噴霧機にて屋根へ散布する
【塗布面積あたりコスト】33円/㎡
【注意点】①石灰乳がダマにならないよう常にかき混ぜる(電動ドリルで攪拌)
②長持ちさせるため、ムラなく丁寧に塗布する

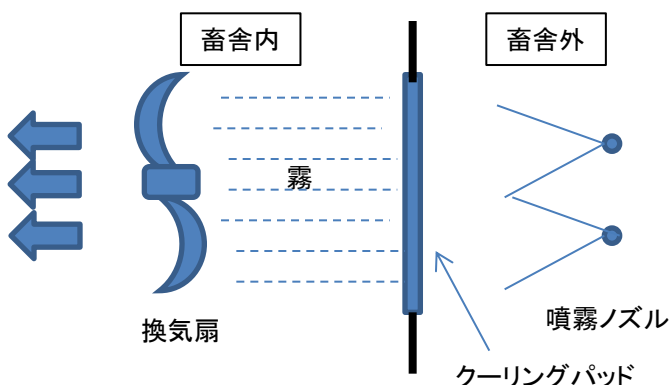
(効果)屋根裏温度の変化 約15℃低下 牛舎内温度の変化 約5℃低下
夏場の採食量が増え、枝肉重量が増加、出荷成績の改善につながった
夏場の飼養管理がしやすくなった

暑熱対策事例 1

愛知県繁殖母豚350頭飼養農場での取組

分娩豚舎へのクーリング・パッドの設置

- クーリング・パッドの外側に噴霧ノズルが付いており、畜舎内に設置した換気扇により、空気を引く。これによりパッドから抜けた霧が畜舎内に流入する(下図)
- 噴霧ノズルは、12秒間噴射後、7秒間停止する間隙作動
- クーリング・パッドは29℃で作動するようにセットされ、作動時間は午前9時から午後6時まで
- 畜舎中央に順送ファンを設置し、排気口まで風量を維持する工夫
(効果) パッド作動時の畜舎内温度は、外気温と比較し、入気側・排気側とも平均4℃低かった



暑熱対策事例 2

群馬県採卵鶏4,500羽 養農場での取組

アカザを利用した鶏舎庇蔭(ひいん)

- 自作地の畑などに自生している雑草であるアカザを梅雨時に抜いてきて、すべての鶏舎(8棟)の東側と南側に移植
- アカザは成長が早く、夏期には鶏舎屋根まで覆い、鶏舎内に日陰ができた。夏を過ぎると枯れるため、後処理も容易
- 自生するアカザを用いるため、低コストで簡易



【注意点】

鶏舎内の風通し確保のため、アカザの下部の茎から出る枝や葉を切るなどの手入れが必要

(効果) 夏期の死亡羽数が激減した

暑熱の影響により家さんの死亡率が上昇した場合でも、万一の鳥インフルエンザの発見や発生拡大を防ぐために、家畜保健衛生所で状況の確認をしますので、必ず家畜保健衛生所までご連絡をお願いします！！